

愛媛県の地震

2020年（令和2年）1月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（1月）	1
3. 地震一口メモ	
南海トラフ沿いで発生する大地震の確率論的津波評価 について	2

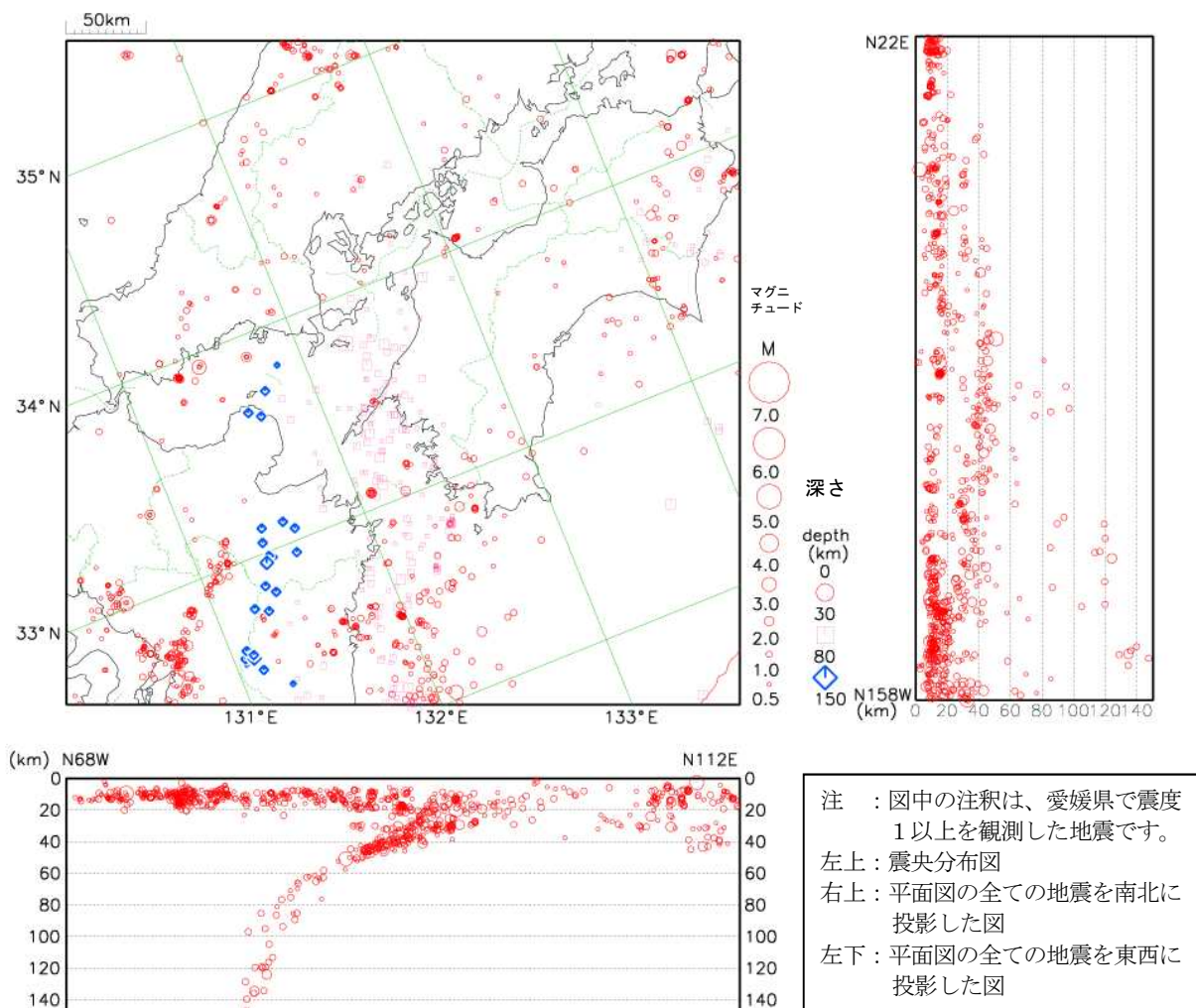
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2020年1月1日～1月31日]



震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。
 また、シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況（1月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうちM2.0以上の地震の回数は50回（先月は50回）、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は0回（先月は5回）でした。

3. 地震一口メモ

南海トラフ沿いで発生する大地震の確率論的津波評価について

政府の地震調査研究推進本部は、今後 30 年以内に南海トラフ沿いで大地震が発生し、海岸の津波高が 3 m 以上、5 m 以上、10m 以上になる確率を評価した「確率論的津波評価」を公表しました。南海トラフ沿いのプレート境界で発生するマグニチュード 8~9 クラスの地震による津波のみを対象としており、最大クラスの地震はその発生頻度を定量的に評価することが困難であることから今回の評価には含まれません。最大クラスの想定地震より規模は小さいが、将来に比較的高い可能性で発生すると考えられる地震・津波について、津波のハザードの分布を概観できるようにしたものです。どこで津波が高くなりやすい傾向があるかの参考として下さい。ただし、評価の対象としていない地震もあるので、確率の低い場所について津波一般に対して安全な場所であることを示しているわけではありません。

なお、本津波評価には日向灘で単独で発生する地震の評価は含まれていません。これについては、日向灘沿いの地震活動の長期評価に基づいて別途津波評価を行う計画です。また、本津波評価で評価したのは浸水深ではなくて最大水位上昇量であり、これらを混同しないようにして下さい。

愛媛県内での評価結果は次の表のとおりです。

愛媛県内市町名	今後 30 年以内に南海トラフ沿いで大地震が発生し、 海岸の津波高が○m 以上になる確率		
	3 m	5 m	10 m
松山市、今治市、八幡浜市（伊予灘）、新居浜市、西条市、大洲市、伊予市、四国中央市、上島町、松前町、伊方町（伊予灘）	6%未満	6%未満	6%未満
宇和島市、八幡浜市（宇和海）、西予市、伊方町（宇和海）	6%未満 または 6%以上 26%未満	6%未満	6%未満
愛南町	6%以上 26%未満 一部 26%以上	6%未満 または 6%以上 26%未満	6%未満

今後 30 年以内に南海トラフ沿いで大地震が発生し、海岸の津波高が 3 m 以上、5 m 以上、10m 以上になる市町ごとの超過率。6%未満、6%以上 26%未満、26%以上の 3 段階のいずれかで確率を示す。複数カテゴリにまたがる場合は「または」で表示する。下位の割合が小さい場合は除外する。上位の割合がごく小さい場合は「一部」として表示する。（2020 年 1 月 1 日時点）

【参考】地震調査研究推進本部公表（令和 2 年 1 月 24 日）

https://www.jishin.go.jp/evaluation/tsunami_evaluation/#nankai_t